

## ル ム バ THE RUMBA

ルムバはアメリカの東南端フロリダ半島の東南にある西印度諸島最大の島キューバに始まつたダンスであります。キューバは面積においてはわが国の本州の半分よりすこし大きく、北海道と九州を合したよりすこし小さい島で、人口は北海道より二割多いのです。この島はもとスペイン領でしたが今は独立国になり、煙草と砂糖を産し、砂糖の産額は世界第一であります。スペイン人がここに殖民したとき原住のインディヤンは原始的な煙草の作り方をしていましたが、アフリカから黒人を連れて来て労作に従事せしめたのと、近年アメリカの技術を取り入れて大いに生産を増加しました。

この国の代表的なダンスはルムバです。このルムバはもとアフリカから連れてこられた黒人が手造りの楽器の伴奏で踊つたのがもとになり、ピアノ、ヴァイオリン、管楽器などはあとから追加されたものなのです。

A ギーロス Guiros ヘチマのような長い瓜の乾いた殻の片側にギザギザを横に沢山つけ、鋼線で磨いてガシャガシャとリズムをとるもの

B ボンゴス Bongos 大きさも音の高さも違う二つの小太鼓を並べて股の間にはさみ両手の指で打つてリズムを出す

C ティムバル Timbal 長い木の胴の片側に獣皮を張り床に立てて手で打つ低音の太鼓

D マラカス Maracas ハコナットの果を乾かし、木の柄をつけて、乾いた種、小石又はビーズなどを中に入れ、二個を両手で振つて規則正しいリズムをとる

E クラヴェス Claves 堅い木を削つた丸い二本の拍子木で、両手に持ち打ち合せて、他の打楽器と、反対のリズムを打つ

これらのものは楽器というよりはむしろ“鳴り物”であり、ここにキューバ黒人のアフリカ大陸に対する郷愁の現われと、彼等が近代楽器というものを奏する技術のないままに、このようなものを鳴らしてリズムを打ちながら踊つたダンスであるということであります。この野性が、グランド・ピアノや電子楽器を鳴らす近代的都会人に愛せられる原因になつ

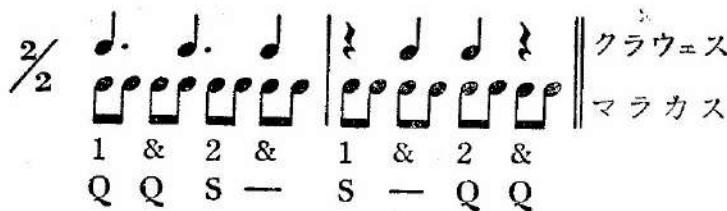


Fig. 186

この島の人口は西印度諸島の半分に近く、土地の面積も半分に近い上に、アメリカに最も近く、その上白人が六割を占め、万事他の島よりよい条件にあるために、この列島のすべてのダンスがここに集つて来ます。ですから通常私どもがルムバとして取扱つていい曲の中には、この本を書くとき大流行であった「カリプソ」Calypso を始めとし、ソン Son ボレーロ Bolero ベギーネ Beguine ガラーチャ Guaracha ダンソン Danson などあります)の例外を除いてはルムバとして外国に紹介されました。

下はすいぶん沢山出ていますが、そのうちでテムポ一分間三十六節前後のものが一ばん踊り易いのです。二三の例をあげますと、

L—一三、アメリカー(36)	L—六六、フランチエスカ(33)	L—三六、マイ・ショール(36)
L—一二、ベサメ・ムーチョ(36)	M—三三六、シェリト・リンク(32)	などであります。

L-1 六六、フランチエスカ(33)  
 M-1 三三六、シリエリト・リンド(32) などであります。  
 L-1 三六、マイ・ショール(36)

ルムバの音楽は  $\frac{2}{2}$  に奏します。そして前の図で示しましたクラベス（拍子木）は不規則なリズムを打つけれども、練習するときは全体の音を聞いて二つにとり、一小節を“一と二と”とります。ルムバはもとキューाに住む黒人の始めたダンスですから、彼らが跣足で砂地を歩く要領よろしく、まず趾球で床を踏み、それから平足になります。いま一つこのダンスのフットワークの特殊なところは、クイックステップなどのように Q Q と速い足が二つ続くときも、両足とも趾球にライズしないで、片足が平足、片足は趾球になつていることです。まず両足を二〇センチほど開いて立ちます。

- 1 左膝を曲げ、左踵を上げたまま体重を半分左足にかける  
2 & 左足を平にし、左膝を伸ばし、体重を左足にかけ、右踵を上げ、右膝を曲げる  
更に 1 & 2 & をくりかえし、練習し音楽に合うまで練習します。